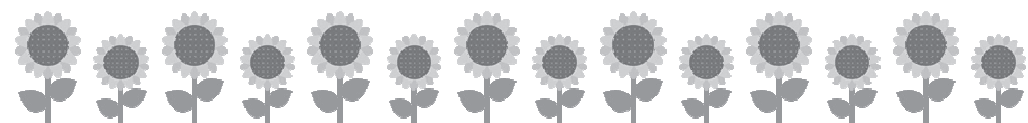


# 第16回「社会を明るくする運動」 「青少年の被害・非行防止運動」 スピーチコンテスト 作文集



「社会を明るくする運動」「青少年の被害・非行防止運動」  
防府地区推進委員会



## ヤングテレホン防府

学校生活や進路のこと、こどもとの向き合い方・教育のこと、こどもの非行のこと、家庭環境（“ヤングケアラー” など）についての悩みなど、誰にも言えなくて困っていることはありませんか？

どんなことでも お気軽に お電話ください。  
経験豊富な相談員が対応します。相談内容は固く守ります。

ナヤミヨナシ

フリーダイヤル（防府局内のみ）0120-783474

（携帯からは 0835-24-3232）

秘密厳守で  
対応します。



防府市青少年育成センター（防府市役所 本館8階）  
（受付時間）月～金曜日 8:30～17:15（祝日、年末年始は除く）

第3日曜日は  
家庭の日

「家庭の日」には、家族ですごしましょう！

- 家族の会話の時間をもちましょう。
- 家族と一緒に食事や読書をしましょう。
- 家族で行事やスポーツに参加しましょう。
- 家族で家事などの役割を分担しましょう。



### 第16回「社会を明るくする運動」「青少年の被害・非行防止運動」 スピーチコンテスト 作文集

令和7年11月発行

編集・製作 「社会を明るくする運動」「青少年の被害・非行防止運動」

防府地区推進委員会 事務局

〒747-8501

防府市寿町7-1（防府市役所 本館8階）

防府市教育委員会教育部 生涯学習課

電話（0835）25-2922

## はじめに

毎年七月は、犯罪や非行を防止し、安全で安心して暮らすことのできる明るい地域社会を築くこと、犯罪や非行をした人が再び犯罪や非行をしないように、その立ち直りを支えることを目指す「社会を明るくする運動」の強調月間及び、青少年の被害・非行防止に向けた諸活動を集中的に実施する「青少年の被害・非行防止全国強調月間」とされています。

防府地区推進委員会においては、両運動に関する本市独自の取組として、中学生によるスピーチコンテストを開催し、地域の皆様と一体となって青少年の被害・非行防止のための取組を進めています。

今年度は、七月二十六日（土）に第十六回スピーチコンテストを開催し、市内十校の代表生徒が日常生活や学校生活の中で、犯罪や非行に関して考えたことや感じたことについて、自身の体験や思いを交えながら力強く発表し、来場された方々に深い感動を与えました。

この作文集は、スピーチコンテストにおいて発表された作文を集録したものです。

犯罪や非行のないまちづくり、青少年の健全育成のためには、地域の皆様がそれぞれの立場で関わり合っていく必要があります。多くの方にこの作文集を御一読いただき、これからの社会を担う青少年の意見や主張を通して、犯罪や非行のない明るい社会、青少年を健やかに育む環境について考えていただければ幸いです。

結びに、スピーチコンテストの開催に当たり、御後援いただきました防府警察署、防府市社会福祉協議会、「小さな親切」運動防府支部、防府市更生保護女性会及び防府市PTA連合会、また、多大なる御尽力をいただいた学校関係者ほか多くの皆様に対し心から感謝申し上げます。

令和七年十一月

「社会を明るくする運動」

「青少年の被害・非行防止運動」

防府地区推進委員会 会長 池田 豊

もくじ

○はじめに

○「社会を明るくする運動」及び「青少年の被害・非行防止全国強調月間」について

○第16回スピーチコンテスト 実施要領

○第16回スピーチコンテスト 写真

○第16回スピーチコンテスト 発表作文

最優秀賞 あなたがいるからわたしがいる

優秀賞 あなたのために

優秀賞 明るい社会のためにできること

優秀賞 相互扶助

優良賞 私達で社会を変える

優良賞 一歩一歩進んで

優良賞 勇気をもって第一歩を

優良賞 声を出す、その一歩から

優良賞 「いじめのたね」

優良賞 交通事故の被害者が増えないように

○「社会を明るくする運動」「青少年の被害・非行防止運動」

防府地区推進委員会 関係機関・関係団体 一覧

1 2 3 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26

『社会を明るくする運動』

「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」

「社会を明るくする運動」とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

本運動は、戦後の混乱期、社会が荒廃していた時代に、住む場所も食べるものもなく街にあふれていた子ども達の未来を危惧した東京・銀座の商店街の人々が、犯罪予防と少年保護を訴えて行った「銀座フェア」がきっかけとなって始まりました。その後、昭和二十六年から、法務省が主唱して行われるようになりました。

毎年七月を強調月間として、全国各地で、数多くの住民



や団体の下、街頭広報活動、スポーツ大会、フォーラム、親子を招いてのコンサート等々、それぞれの地域の特色を活かしながら、大人と子どもが気軽に参加し、触れ合えるような様々な活動が行われています。

『青少年の被害・非行防止全国強調月間』

内閣府では、学校が夏休みに入る毎年七月を「青少年の被害・非行防止全国強調月間」と定め、関係省庁、地方自治体、民間団体等と連携しながら総合的な被害・非行防止活動を展開していきます。

本年も、関係機関・団体のみならず地域の方々の参加も得て、青少年の規範意識の醸成及び社会環境の浄化を図ることなどを始めとした諸施策、諸活動を有機的な連携の下に集中的に実施し、青少年の被害・非行防止と保護の徹底を図ることとしています。





|                                  |                                    |                               |                                     |                  |                   |                                   |                                  |                   |
|----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------|------------------|-------------------|-----------------------------------|----------------------------------|-------------------|
| （後列右から）                          |                                    |                               | （中央右から）                             |                  |                   | （前列右から）                           |                                  |                   |
| 防府市更生保護女性会<br>会長 重枝 操さん<br>（審査員） | 防府市中学校長会<br>会長 山本 賢一朗さん<br>（審査委員長） | 山口保護観察所長<br>久保 和慎さん           | 防府市教育委員会<br>教育長 江山 稔さん<br>（審査員）     | 桑山中学校<br>小林 愛莉さん | 佐波中学校<br>河村 向日葵さん | 防府市社会福祉協議会<br>会長 石田 和雄さん<br>（審査員） | 右田中学校<br>出穂 結唯さん                 | 華西中学校<br>西村 隆希さん  |
| 防府保護区保護司会<br>会長 澤田 健規さん<br>（審査員） | 小野中学校<br>柏山 美花さん                   | 大道中学校<br>村田 玲奈さん              | 防府市青少年育成市民会議<br>会長 杉山 一茂さん<br>（審査員） | 富海中学校<br>河内山 彪さん | 国府中学校<br>大関 月咲さん  | 防府警察署<br>署長 中野 壮さん<br>（審査員）       | 防府市PTA連合会<br>会長 吉井 秀樹さん<br>（審査員） | 牟礼中学校<br>池田 ひなたさん |
| 防府市小学校長会<br>代表 俣賀 信裕さん<br>（審査員）  | 華陽中学校<br>辻 彩加さん                    | 防府地区推進委員会<br>会長（防府市長）<br>池田 豊 | 防府市中学校国語研修部<br>代表 荒瀬 淳子さん<br>（審査員）  |                  |                   |                                   |                                  |                   |

第16回 スピーチコンテスト 実施要領

- (1) 目的

犯罪や非行問題に関して考えたことや感じたことについて、次代を担う青少年が発表することにより、本運動の理解及び参加を促進することを目的とする。
- (2) 発表者

防府市内中学校 代表生徒
- (3) 内容

「社会を明るくする運動」及び「青少年の被害・非行防止運動」の趣旨を踏まえ、家庭生活・学校生活の中で体験したことや見聞きしたことをもとに、犯罪や非行について考えたことや感じたことを発表する。
- (4) 表彰

最優秀賞 1点      優秀賞 3点程度      優良賞 6点程度
- (5) 審査員

|              |           |        |
|--------------|-----------|--------|
| 防府市中学校長会     | 会長（審査委員長） | 山本 賢一朗 |
| 防府市中学校国語研修部  | 代表        | 荒瀬 淳子  |
| 防府市小学校長会     | 代表        | 俣賀 信裕  |
| 防府市PTA連合会    | 会長        | 吉井 秀樹  |
| 防府警察署        | 署長        | 中野 壮   |
| 防府市青少年育成市民会議 | 会長        | 杉山 一茂  |
| 防府市更生保護女性会   | 会長        | 重枝 操   |
| 防府保護区保護司会    | 会長        | 澤田 健規  |
| 防府市社会福祉協議会   | 会長        | 石田 和雄  |
| 防府市教育委員会     | 教育長       | 江山 稔   |
- (6) 表彰内容

表彰状、記念品

## 閉会行事

表彰式  
池田会長から表彰状授与



講評（審査委員長）  
防府市中学校長会 会長 山本 賢一朗



閉会のことば  
防府市青少年育成市民会議 会長 杉山 一茂



## 発表者のみなさん



## 開会行事

内閣総理大臣メッセージの伝達  
山口保護観察所長から池田会長へ



主催者あいさつ  
防府地区推進委員会 会長 池田 豊



手話通訳・要約筆記の様子



## アトラクション



防府アスピラート  
児童合唱団ファンファーレ  
による合唱

## 最優秀賞

### あなたがいるからわたしがいる

防府市立大道中学校

三年

村田 むらた

玲奈 れな

皆さんは、「ウブントウ」という言葉を聞いたことがありますか。おそらく、初めて耳にする人が多いのではないかと思います。これは南アフリカ共和国の公用語「ズールー語」にある言葉です。意味は、少し長くなるのですが、「人間は誰しも不完全な存在なのだから、お互い心を開き、赦し合って、違いを認め合って、そして助け合って生きていきましよう。」というものです。自立して個性を発揮することも大切です。でもそれよりも、他者との繋がりと共感する心を大切にしようという考え方なのです。私は「ウブントウ」という言葉と出会ったとき「これだ」と思いました。この「ウブントウ」こそ、より良い明るい社会を創るためのキーワードになるのではないかと思ったのです。

私たちが暮らす社会には、様々な人がいます。何かしらのハンディーを持つ人、お年寄りや外国籍の方も、様々な事情の中で生きています。だから、ともすれば互いの違いを認められず、誤解やすれ違いが生まれ、いじめや差別といったものが生じてしまいます。いじめや差別は、お互いの繋がりを断ち切ってしまうものです。

私は中学一年生のとき、二回の転校を経験しました。転

校する前は、小学校からの友達や新しくできた友達に恵まれて、毎日がとても輝き楽しいものでした。でも、最初の転校で、様子は一変しました。私は友達と別れた悲しさと、新しい環境の中に飛び込む不安で、心を塞いでしまったのです。周りとの関わりを大切にせず、積極的に話しかけることはありませんでした。クラスメイトとは、うわべだけの空しい会話に終始してしまいました。学校では、挨拶しか口にしない日もありました。今、思い出しても心が苦しくなります。いじめにあったわけではないのですが、私の表情や仕草が、近づきがたい雰囲気醸し出していたのでしょう。とても寂しくて、孤独で、家に帰って一人で泣くこともありました。そのような私を助けてくれたのが、前の学校の友人との電話での会話でした。私の学校での様子を理解を示してくれ、共感して私に寄り添ってくれたのです。この経験の後、出会ったのが「ウブントウ」でした。友人が私にしてくれていたのがまさに、この言葉を体現したものでした。私に足りていなかったのは、まさにこの精神だったと気づきました。この精神は、社会全体にも必要なものだと思います。完璧ではない私たち一人ひとりが思

いやりや優しさの一步を踏み出し、心を開いて、赦しと共感の心を大切にすれば、孤立や誤解を防ぎ、皆が共に幸せに暮らす明るい世界が生まれるのではないのでしょうか。そしてこの経験の後に、二回目の転校となります。この機会に、私は自分を変える決心をしました。私は心を開き、そして新しい友人の言葉に真剣に耳を傾けるよう、努力しました。すると沢山の友人との繋がりが生まれ、心地よい関係を築くことができました。今では小学校からの友人と同じ仲の良い友達もできました。みんな、私のことを私以上に知ってくれているので安心できてとても心強いです。

私たちが目指すべきは、誰もが安心して暮らせる、いじめや差別、そして犯罪のない明るい社会です。すぐにはたどり着けないかもしれませんが、一人ひとりが「ウブントウ」の精神をもって生活すれば、きっと変わる何かがあるはずです。皆さんも私と一緒に勇気の一步を踏み出しましょうか。



## 優秀賞

### あなたのために

七十三万七千六百七十九。この膨大な数は、昨年の犯罪認知件数です。私は毎朝、学校に行く支度をしながらニュースを見ています。報道される内容は毎日様々。流行りのファッションや、スポーツ選手の活躍などの明るい話題が取り上げられる一方で、毎日のように報道される、強盗や詐欺、殺人などの暗い出来事の数々。毎日のように犯罪が起こって報道されるこんな社会は、果たして明るいと言えるのでしょうか。私たちに何かできることはないでしょうか。

私はふと、最近道徳の授業で学習した、『リクエスト食』に込められた思い」という話のことを思い出しました。それは、末期がんなどの難病を患い、余生を静かに過ごす人のためのホスピスという施設の話です。そのホスピスでは「リクエスト食」という患者さん一人ひとりが好きなメニューをリクエストする取り組みが行われています。「リクエスト食」と聞いたとき、「患者さんの残り少ない日々を、少しでも華やかにするいきなはからいだ。」私はそう思いました。

けれども、「リクエスト食」に込められた思いはもつと

深いものでした。「ホスピスで患者さんのお世話をする私たちは、『私はあなたのことを大切に思っている。』という思いを、それぞれの立場で患者さんに伝えることが大事です。」このホスピスに勤務する医師の言葉に、私は胸を打たれると同時にほっとしました。「リクエスト食」に込められた思いは、患者さんを喜ばせたいという思いだけでなく、「患者さんを大切に思っている」という患者さんへの思いにあふれているのだと気づいたのです。患者さん一人ひとりを大切に思い、一人ひとりと向き合う姿勢。そのおかげで患者さんが穏やかに過ごせているのだと私は思いました。

ホスピスで働く方たちとは少し違いますが、私にはこんな経験があります。それは、小学校二年生のときのことです。学校行事として近くの高齢者施設を訪問しました。高齢者の方たちとあやとりをしたり、歌などを歌ったりして一緒に楽しく過ごしました。私たちは訪問日まで、施設の方たちが楽しんでくださるように、なかなかできないあやとりの練習を何度もしたり、大きな声で一生懸命歌を歌ったりしてきました。当日、苦勞したかいがあつて、あやと

りも歌もうまくでき、おじいさんやおばあさんたちもとても喜んでくださいました。そのときの嬉しそうな笑顔が忘れられません。

あのときの笑顔は、私たちが高齢者の方たちのことを思っ取り組んだことだからこそ得られたものだったのではないのでしょうか。ささいなことでも、相手のことを思えば、少しでもその人を明るい気持ちにさせることができるのです。道徳の話を通して、学び、気づかされた大切なこと。人を思い、人と向き合う。これらこそ、現代社会を明るくすることができるといえるべきであり、人としてあるべき姿の一つではないかと思えます。

私のような学生は学業に追われ、社会人は仕事に追われ、自分のことで精いっぱいかもしれません。けれども、一人でいいので、その人を思っ、その人と向き合っ、みませんか。それが、多くの人に広がっていけば、明るい社会になると思います。今からでも遅くないはずですよ。これから社会がどうなっていくのかは、今を生きる私たちににかかっています。

私は、この社会を明るくしていきたいです。そのために私は、たくさんの方のことを思い、たくさんの方と向き合い、たくさんの方のために動けるようになろうと思います。家族や友達、地域の方々、私を支えてくれるたくさんの方たちのために。そして、いつか出会うかもしれない、あなたのために。

防府市立牟礼中学校

三年

池田 いけだ

ひなた



## 優秀賞

### 明るい社会のためにできること

防府市立華西中学校 三年 西村 隆希 にしむら りゅうき

ニュースを見てみると、詐欺や強盗、殺人など犯罪に関する事件が多く報道されています。私は、犯罪者に対して自己中心的、怒り、恐怖などネガティブな感情を持ちながらも、犯罪は自分とは関係のない世界のことだと思っています。しかし、最近自分の学校付近で不審者の目撃情報があったり、スマートフォンに知らない番号から電話がかかってきたりして、自分も被害にあうかもしれないと少し危機感を抱くようになりました。

調べてみると、第一に非行や罪を犯す背景には、虐待等によって家庭に居場所が見出せないなどの家庭環境が複雑である場合や、いじめ等で傷ついた体験をした人が多いということが分かりました。第二に、罪を犯してしまう人の多くは、人との関わりがなく、孤独が続く相談をすることができないために、再び罪を犯してしまうということが分かりました。

この二つに共通しているのは「孤独」ということです。孤独になると、自己中心的な価値観になり、やって良いことと悪いことの区別がつかなくなってしまうと思います。このようなことから私は、犯罪を少なくするためには人と人との

関わりを大事にして、お互いに声を掛け合いながら助け合  
いの心をもつことが大切だと思いました。

実際、社会には、立ち直ろうとする人たちに寄り添い支  
援する更生保護という活動や、保護司やBBS会、更生  
保護女性会といったボランティア活動があるそうです。私  
は、このような「人との関わりによって犯罪を少なくする  
取り組み」が身近にないか、自身の住む地域にも目を向け  
てみました。

私が暮らしている地域では、小・中学校でコミュニティ・  
スクールを導入し、「地域とともにある学校」を目指して  
おり、地域の方と日常的に関わる機会が多くあります。例  
えば、小学校では「にこにこスペース」という地域の人と  
ゲームやおしゃべりをする場を設けています。また、月初  
めに生徒会の活動として、登校時間に小学校の正門や昇降  
口に立って、地域の方とあいさつ運動を行っています。私  
もこの運動に参加しており、小学生が元気にあいさつを返  
してくれたり、地域の方が笑顔であいさつをしてくださつ  
たりするので気持ちの良いコミュニケーションを取るこ  
とができています。加えて、寺子屋学習会という活動も行

われています。そこでは、地域の方に勉強を教えていただ  
いています。さらに、小学生の時には、登下校時に見守り  
隊の方にサポートしてもらい、安心・安全に登下校するこ  
とができました。思い返してみると今までは当たり前だと思  
っていたことが当たり前ではないことに気づき、地域の  
方に見守られていることを改めて実感することができまし  
た。そして、私の地域で行われている取り組みは犯罪者の  
背景にある「孤独」の解消につながっていると思いました。

地域に様々な助けをしていた一方で、私が社会を明  
るくするために自分ができることがないかを考えてみまし  
た。私は小学生の時に、全校生徒が協力し、七夕飾りを作っ  
て、民生委員の方と一緒に地域の高齢者の方に配るという  
取り組みをしていました。地域の方から大変喜んでいただ  
き、自分も嬉しくなったことを覚えています。

そこで、普段から地域の方に感謝の気持ちを伝えたり、  
あいさつに一言付け加えたりして、コミュニケーションを  
とることが私にできることではないかと思いました。地域  
の一員として、積極的に行事やボランティア活動に参加  
し、交流をしていくことで「孤独」を防ぐ力になりたいと  
思います。

地域とのつながりがあると、人との関わりも増えて犯罪  
を未然に防ぐことができると思います。今後もより良い社  
会の実現のために自分のできることを見つけ、自分も社会  
を明るくする一員だということを忘れず行動していきたい  
です。



## 優秀賞

### 相互扶助

防府市立佐波中学校 二年 河村 向日葵

かわむら

ひまり

皆さんは、誰かに言われた一言がずつと心に残ってしまっていることがありますか。私は、小学生の頃、学童保育で、今でも忘れられないような経験をしました。

きっかけは友達が私の名前でからかい始めたことです。初めのうちは私もあまり気にせず、軽く受け流し、「やめてよー」と言っていました。ですが、それが段々とエスカレートしていき、私の心の中に暗い雲が広がっていくように気持ちが悪くなりました。多分相手は「いじめてやろう、嫌がらせをしてやろう」と思っていたのではなく、ただ単に遊びの範疇で言ったのだらうと、思います。実際、私も相手に嫌なことを言われた時に、相手と同じような言葉で言い返していました。しかし、学校でも相手の子の集団に会うと、名前でいじられたり、「死ぬ。」「消えろ。」などの言葉を言われたりしていたので、次第に学校に行くこと、学童保育に通うことが憂鬱になっていきました。私の家は母子家庭だったので学童保育には通わないといけません。「いつも忙しそうな母に、迷惑をかけるかもしれない。」と思うと、誰かに相談することもできませんでした。

ある時、勇気を振り絞って学童保育や学校の先生に相談

してみました。相手と話し合うことになり、自分の気持ちを伝えることができました。その時は、誰かに相談することができて、少し心の中の雲が晴れたけれど、段々と元の状態に戻ってしまい、嫌がらせもエスカレートしていきましました。心の中の雲は晴れるどころか、どんどんと広がっていきましました。迷惑をかけるかもしれないと思いながらも、思い切って母に相談してみました。静かに話を聞いてくれた母の瞳、かけてくれた励ましの言葉。他の人には言えなかった自分の本当の気持ちを吐き出すことができて、その嬉しさと、今まで耐えてきた辛さに、とめどなく涙があふれてきました。母に相談した後は、たくさん泣いて、心の中の雲が晴れたように、すぐスッキリしていました。信頼できる人に相談することで、自分の気持ちが楽になりました。改めて相談することの重要さに気づくことができました。

私がこの経験を通じて、いじめや犯罪のない社会に必要だと思ったことは、人と人との支え合い、助け合いの「心の相互扶助」です。今の社会では、罪を犯してしまった人が、心を入れ替えることができていても、周りの人が差別

の目や偏見をもちながら、その人と接することが大半だと思っています。そんな社会を変えていくには、私たちの意識を変えなければなりません。罪を犯したり、何か辛いことを抱えているけれど周りに相談できなかったりする人に対して、その心に寄り添い、サポートすることが重要です。それが、「心の相互扶助」、皆が笑って過ごすことができると思います。

ですが、私は助けを求める側が誰かにすぐ相談できるというのは難しいと思います。実際に私がそうだったからです。辛いことを抱えていたとき、「相手に迷惑をかけたかどうかしよう。」と迷ってしまうのです。そこまでではなくても、自分の悩みや辛さを簡単には相談しづらいと思います。だからこそ、身近に思い悩む人がいるなら、自分から手を差し伸べられるような人に私はなりたいです。私の経験だけでなく、今の世の中で起きていることの中で、傷つけるのも、傷つくのも全て「人」です。それに気づいて支えてあげるのも「人」です。たとえ無意識でも、人は傷つけたり傷ついたりしてしまうと、私は実体験から気づきました。そのことを皆が理解し、お互いを認め合っている社会こそが、安心して皆が笑って過ごせる明るい社会だと思います。誰かが誰かに助けを求めることが当たり前に行けるような社会を目指して、中学生の私にもできる「心の相互扶助」を少しずつ実践していきたいです。



## 優良賞

### 私達で社会を変える

防府市立華陽中学校 二年 辻 彩加

「宿題やってなかった！」

ゲームをしていたり、インターネットを使っていると、時間を忘れて思わず使い過ぎてしまいます。日曜日の夜に宿題をやっていないことに気づき、焦って終わらせることもしばしばです。様々なインターネットやSNSを使っていると、次から次へと色々な画面が表示され、何となく見えてしまいます。気づけば一時間経っていた事も少なくありません。インターネットはやめたくてもやめられない、薬物と似通った面があると思います。

先日、学校で「薬物乱用ダメ、ゼツタイ。教室」がありました。薬物使用に関するお話の後で、SNSの行き過ぎた利用で、性犯罪に巻き込まれてしまう中学生の動画を見ました。初めは軽い気持ちで始めたSNSが発端となり、友達の一言の書き込みで性犯罪の加害者になってしまった、という人の話でした。インターネットを使った犯罪のニュースはよく耳にします。犯罪の種類によっては命に関わります。被害者にならないことが第一ですが、自分が知らないうちに加害者にならないよう意識することも大切です。

そうは言っても、私たちが生きている時代は、インターネットに関わらないと生きていけない、そんな時代に近いと思います。学校でも一人一台タブレットが渡され、授業の中でも毎日利用します。学校から帰ってからSNSで友達とやりとりをしたり、知らない人の投稿を見たりします。それで、つい使い過ぎてしまうのは私だけではないと思います。

では、私たち中学生が使い過ぎを防止するにはどうしたら良いのでしょうか。

みなさんは「ペアレンタルコントロール」という言葉を聞いたことがありますか。「ペアレンタルコントロール」とは、保護者が有害なサイトへのアクセスや利用時間を制限したりできる機能のことです。私のタブレットにも付けられています。この機能があることで、何となく利用していたものから離れることができます。

しかし、「ペアレンタルコントロール」には一つ問題があると私は考えます。それは強制的にやめさせられることによって、ストレスがたまってしまうことです。私ももっと使いたいのに、それができず、ストレスを感じることが

あります。だからといって、制限をなくしてしまうと、使い過ぎてしまいます。その辺りのバランスが「ペアレンタルコントロール」の難しいところだと思います。

以前、情報リテラシーが専門の大学の先生が、スマートフォンの方について話している番組を見ました。その先生が提案しているのは、「白紙ルール」というものでした。「白紙ルール」とは、まず小中学生がスマートフォンを購入するのは、「自分の家の玄関に貼りだせないようなことはSNS、ネットには書けない」ということを理解できるようになった時だ、とおっしゃっていました。これは、華陽中学校でも学年生徒指導の先生も度々おっしゃっていることです。その上で、事前に明確なルールを定めるのではなく、使用中にトラブルが発生した際に、親子で話し合いながらルールを決めていく方法のことだそうです。例えば、長時間の使用によってどんな弊害が起ったかを自分で考え、使用時間を自分で設定し、使い過ぎを防止します。その都度ルールを主体的に作っていくことで、次からは気をつけて使おう、と思うことができます。この番組を見てから、「白紙ルール」を取り入れたわけではありませんが、自分から気をつけようという気持ちが強くなりました。

インターネットの犯罪は、一度犯してしまうと元に戻れない薬物と似ていると思います。使い方を間違うと、簡単に犯罪の入り口まで行くことができます。ですから私たちはインターネットの使い方について、十分に考える

ことが大切です。それが、私たちの明るい未来につながると思います。



## 優良賞

### 一歩一歩進んで

防府市立国府中学校

二年

大関 おおぜき

月咲 つかさ

最近、悲しいニュースが多いと感じています。私はいつも犯罪を犯した人の動機が気になります。どのように犯罪は生まれるのだろうかと考えます。ニュースの中で、犯罪を犯した人の周りの人にインタビューする場面を見ました。すると、「そんなことをする人ではなかった」というセリフが出てきます。そのとき私は、私と同じように普通の日常を過ごしていた人が犯罪者になることがあるのだと思いました。考えてみると私の身近なところにも「悪いこと」はあります。たとえば私も、自分のためのウソをつくことがあります。やるべきことから逃げてしまうことがあります。そんな、普通の日常の中から、犯罪が生まれているのだとしたら、私はどうしたらいいのでしょうか。悲しいニュースを少なくするために、犯罪に手を染めてしまう人を減らすために、中学生の私にできることを考えました。

私の通う国府中学校は、全校生徒の活動として三二一アクションを行っています。三二一アクションとは、三分前入室、二分钟前着席、一分間黙想をする活動です。また、心を磨くために、無言で掃除を行うルールもあります。ところが、「もう少し」と、友達とのおしゃべりを優先し、三二一

アクションを守れない人がいました。「ちよつとくらい、いいだろう」と無言清掃ができないときがありました。しかし、現在では学級のリーダーである総務委員を中心にルールを守る人が増えていきます。生徒が呼びかけて、自分たちで自分たちを変えようとしています。また、自分たちで考え学年集会を行うようになりました。学年集会では、自分たちで直すべき点を見つけ、改善するための活動をしています。たとえば、テスト週間に、学習時間をより増やしたいと考え、各クラスの学習を競うクラスマッチをしました。また、自学ノートの内容をよりよくするために学年で頑張っている人の自学ノートを大きなモニターで見える企画もありました。これらの活動を通して、一人ひとりが課題を自分のこととして捉えることができました。さらに、達成感や喜びを感じながら日々をすごすこともできています。クラスの一学期の成長を見せる学年集会では、自分のクラスが一致団結していることに改めて気付かされました。

このように、自分たちで自分たちを動かし、一つ一つ課題を解決したり、改善したりすることがとても大事だと考えます。みんなが一致団結する経験や、課題を乗り越える

経験を積むことで、まず中学生から明るく生活していきます。

今後も私は、仲間と共に自分たちを変えながら、何気ない日常を大切に過ごします。誰もが互いに寄り添える環境を作っていきます。中学生の私たちが、明るい社会を作るために、一歩一歩進んでいきます。



## 優良賞

### 勇気をもって第一歩を

防府市立富海中学校 三年 河内山 彪こうちやま ひょう

「おはよう」や「ありがとう」このような温かい言葉がたくさん聞こえてくる、そんな明るい社会にしたいと思いませんか。

私は野球のクラブチームに所属しています。「挨拶はしっかりとやる」というのがチームの方針です。しかし、監督からそう言われたとき、「本当に意味があるのだろうか」と半信半疑で、あまり挨拶ができずにいました。そこで、監督に挨拶をする意味を尋ねてみると、「挨拶は人との関係を築ける、とても素晴らしいものなんだ。」と教えてくださいました。このとき、私は、多くの人と関われるようになるのと今の自分が成長できるのではないかと思ひ、その日から積極的に挨拶をするようになりました。すると、新しい出会いがあったのです。

登校するときに、必ず出会うランニングをしている地域の方がいます。私が挨拶をすると、その方はいつもここに挨拶を返してくださいるので、私はその方に挨拶をするとても明るい気持ちになっていました。そして、挨拶を毎日続けていくうちに、その方と心の距離が近くなったように感じ、「何で走っているんですか。」と聞いてみたくなりました。すると、その方は笑顔で答えてくださり、そこから次第に話をしていくようになりました。そして、その方が夕方にも走っているということを知り、「私もマラソン大会があるんです。」と伝

えると「一緒に走ろう。」と挨拶をしていたいつもの場所で待ち合わせをし、一緒に走るような仲になりました。挨拶がなければ、私とその方はただすれ違うだけの関係で終わっていたかもしれません。しかし、挨拶をすることで、その方の優しい人柄まで感じることで、こうして新しい出会いをもたらしてくれたのです。

また、私の所属している野球チームは、歩道のごみ拾いや地域の清掃活動、お祭りの運営のお手伝いなど、さまざまなボランティア活動に参加しています。私の野球チームは、私が中学一年生の時にできたばかりのチームです。地域からの寄付があったり、地域の交流センターをお借りしたりするなど、地域の支えがあるからこそ練習ができています。お世話になっている方に恩返しをするために、私たちはチームでボランティアをしているのです。ボランティア活動というと、私の憧れでもある大谷翔平選手を思い浮かべる人も多いと思います。大谷選手がグラウンドに落ちているごみを拾っているという話はとても有名です。大谷選手は「ごみは人が落とす運。ごみを拾うことは運を拾うこと。」と語っています。私は、大谷選手がメジャーリーグというあの大舞台で大活躍をすることができるのは、こういったごみ拾いのような小さなことをコツコツとやっているからだと思います。大谷選手

は、プレーの面でも素晴らしいですが、私は人柄の面でも尊敬しています。プレーも人柄も超人的なものをもっている大谷選手に少しでも近づくことができるように、学校で募集されるボランティア活動にも積極的に参加しています。富海海岸や地下道の清掃をしたり、小学生に算数を教えたりするなど、富海小中学校の一員として、地域の一員として、これまでたくさんボランティア活動に参加してきました。そこで関わった人たちからたくさん「ありがとう」をもらい、私までうれしい気持ちになりました。私がこうやって行動を起こしていくことで、喜んでくれる人が増えるのなら、このボランティアの輪をどんどん広げていき、続けていくことが必要だと感じています。

そして、こうして多くのボランティアに参加してきたからこそ気が付いたことがあります。それは、私たちの一番身近でボランティア活動をしてくださっている方々の存在です。私が富海小中学校に入学してからの九年間、私たちより早く通学路に立ち、毎日私たちの安全を常に見守ってきてくださっている見守り隊の方々です。小学生だったころは、登校班があり、見守り隊の方々、登校班の後ろにつき学校まで一緒に歩いてきてくださっていました。小学生のときはそれを当たり前前だと思っていました。中学生になってそのありがたさをきちんと感じるできるようになり、毎朝すれ違う見守り隊の方々に、今までの感謝の気持ちを込めて挨拶をするようになりました。

この町を明るい社会にいくためには、私たち一人ひとりの行動が鍵になってきます。自分から挨拶をしたり、誰かのために思っただけボランティア活動をしたりすることで、さまざまな立場の人のことが考えられるようになるなど、

見える世界が広がり、温かい気持ちももてるようになるのだと考えます。少しの勇気をもって、その第一歩を踏み出し、たくさんの人とつながることができる社会にすることができたらと考えています。



## 優良賞

### 声を出す、その一歩から

防府市立小野中学校 三年 柏山 美花 かしま みか

なぜ人は、罪を犯してしまうのでしょうか。良くないことだと分かっているがやってしまうことが、なぜあるのでしょうか。

他の国と比べて、比較的治安が良いと言われている日本でも、多くの犯罪や非行問題があります。いろいろな事件を聞きますが、自分が生活している環境が平和だと、ついニュースの中だけでの出来事だと捉えてしまいます。

なかでも、私が驚いたのは、「いじめは遊びだから大丈夫。」と思っている人がいるということでした。しかし、いじめはれつとした罪深い行為です。ふざけて放った一言、一方的な悪ノリ、誤解の解きようがない陰口。これらの心ない言動が積み重なって相手を苦しめ、取り返しのがたないことになるのです。

では、なぜいじめが起きるのでしょうか。私が考えた原因は、「周りの空気に流される」ということです。いじめではなく、内容に差はあっても、誰しも「周りの空気に流される」という経験はあるのではないかと思います。

私自身もそのような経験が何度かあります。ある日、友達がクラスの一人を無視しようと言いました。私はそんなことはしてはいけないと思っていながらも、その時は

場の空気を壊したくなくて、反対することができませんでした。また、その友達との人間関係が悪くなることも恐れていました。今思うと、自分のことしか考えていない行動だったと、後悔しています。「自分が、無視しようと言いつたのではないから大丈夫。」と思っていたのも間違いでした。同じくらいひどいことをしてしまったのだと、後から気づきました。私のように、後から気づくようでは遅いのです。

また、別の立場で、「周りの空気に流される」という経験を目の当たりにしたことがあります。この六月にあつた学校の生徒総会で私は議長を務めました。その時、全校生徒に意見を聞きましたが、三年生の手がなかなか挙がらず、話し合いは滞りました。きつと、何人かの人の心の中には、提案したい思いや伝えたい意見があつたことでしょう。しかし、「自分の意見が間違っていたらどうしよう。」「こんなことを言つて変に思われたりしないかな。」と思い、発言を控えたのだと思います。私も議長として、場の雰囲気を変える一言を入れ、前向きな人たちの思いを引き出せるような進捗ができたなら良かったと思えました。この経験から、「空気に流される」という行動には、正しさより安心を選んで

しまうという怖さがあると感じました。

これらの体験を通して、空気に流されて無責任な行動を選んでしまわないために大切なことが分かりました。一つ目は、自分の意見を根拠と共に、しっかりとつこと。なぜそう考えるのか、その理由が自分で分かっているなければ、自信がもてません。その自信のなさから、発言力の強い人の言葉に流されてしまいます。自分の思いや考えに少しでも自信をもつておくこと、それが、安易な判断をしないための一つの方法だと思いました。二つ目は、発言しやすい雰囲気を作ること。場の雰囲気は一部の人だけに委ねられるものではありません。お互いの意識、双方向の働きかけです。自分と同じように相手を大切にし、自分も大切に思われていると感じることができれば、安心して言葉を交わすことができます。最大限の良い選択や決断ができる雰囲気は、皆で作るものだと思います。

一方、個人の声が尊重されるべきだという世の中でもあるため、自分の思いを全て通してもらおうとする感覚の人、増えているようです。それは同時に、我慢を強いられる人を生み出している可能性があります。どちらか一方を優先させる関係では、明るい社会には近づけません。学校の友人関係も、生活をより良くする活動も、明るい気持ちになれる状況を目指すなら、お互いを大切に思い合う関係を、意識して保つ努力がいると思います。

一人ひとりが自分の思いをしっかりとつことからその人らしさが生まれ、安心して自分らしさを出せる環境が明るい気持ちを生みます。そのような中で抱いた夢や希望を、

応援し合いながら目指せる社会、それこそが「明るい社会」なのではないでしょうか。勇気を出して踏み出した一歩、みんなで前へ進むための一声が、明るい社会に繋がる鍵だと私は思います。



## 優良賞

### 「いじめのたね」

防府市立右田中学校

二年

出穂 いずほ

結唯 ゆい

文部科学省が行った二〇二四年の調査によると、小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめ認知件数は、過去最多の七十三万二千五百六十八件であり、その中でも、生命や心身などに重大な被害が生じた疑いのある重大事態件数は一三〇六件です。

私はこれまでいじめの現場に遭遇したことがないため、この結果を知ったとき、物語の中だけでなく、実際にいじめが起こっていること、いじめによって被害を受けている人がいることを改めて実感しました。この結果はもっとたくさんの人が知っておくべき事実だと思います。

中学生の私にとって、「いじめ」は自分には関係がないことのように、実は身の周りにひそんでいるものなのです。私たちは、小さい頃から、人を傷つけてはいけない、人の悪口を言うてはいけないと言われ続けています。しかし、中学生の私の身の周りには、陰口や悪口が溢れています。

陰口や悪口の原因は、「共有したい」、「共感してほしい」という気持ちだと思います。自分にとって何か嫌なことや気に入らないことが起きたときに、周りの人にそれを伝

え、気持ちを共有することで、共感してもらい、自分は悪くないと正当化するための手段に使われているのだと考えました。

また、悪口や陰口は、それを疑わず信じ込み、勝手に事実だと決めつける人によって噂として広まってしまうこともあります。

私は初めに「いじめの現場に遭遇したことがない」と述べましたが、このような「いじめのたね」はたくさんあるのだということに気がつきました。

「いじめのたね」の中には、差別もあると思います。

世界には、様々な差別で苦しんでいる人が大勢います。身近なところでは、外見や性格、得意不得意、社会でも、ネットでの誹謗中傷やハラスメント、ジェンダー問題など、子どもだけでなく、大人もいろいろな理由をつけて差別をしているように感じます。

差別の原因は古いルールや慣習、人を見下したい気持ちや、人よりも優位に立ちたいという気持ちなのではないかと思います。それをなくしていくためには、とても初歩的なことではありますが、相手の気持ちを考え、嫌がること

や不快に感じるようなことをしない、そして、自分が間違った行動をしてしまったときには、きちんと非を認めて謝ることが大切だと考えます。そうして初めて、互いを認め合うことができるのではないのでしょうか。

いじめや差別は、被害者も加害者も誰も得をしない行爲です。また同時に、被害者も加害者もどちらもその行爲についてずっと傷や責任を背負って生きていかなければなりません。始まりはストレスや八つ当たり、おもしろがる気持ちなど、軽いものかもしれません。しかし、気づいたときには、人の命や心、体まで傷つけてしまう可能性のある行爲です。

初めに述べた文部科学省の調査では、認知されたいじめのみが報告されています。しかし、「いじめのたね」はたくさんあるのではないかと想像できます。だからこそ、この調査の結果をたくさんの人に知ってもらい、自分の生活を振り返ることで、考え方や行動を見直す機会にしてほしいと思います。

いじめや差別のない明るい社会に向けて、大人も子どもも思いやりをもって生きていける社会になってほしいというのが私の願いです。一人ひとりが見方や考え方を柔軟に変えて、個性を認め合えるように、私は、世の中のさまざまな人や考え方、生き方を知り尊重していきたいです。また、誰もが「いじめのたね」を作るのではなく、無くしていくために行動できる社会になっていってほしいです。



## 優良賞

### 交通事故の被害者が増えないように

防府市立桑山中学校

二年

小林 愛莉

こばやし あいり

今年の春休み、私は交通事故に遭いました。部活動に参加するため自転車で学校に行く途中のことで、いつも通っている暗い路地を抜けようとした時でした。左右を確認して路地を出ると右の方から車の音がしたのですが、そこから何が起ったのか分かりません。気がついたら私が道路に倒れていて、たくさんの毛布がかけられていました。近くの人が救急車を呼んでくれたらしく、私は病院に運ばれました。運ばれる前に少し混乱していたけれど、学校の先生が来てくださって、「小林さん、大丈夫？びつくりしたね。」と声をかけてくれ、「わざわざ来てくださったんだ」と、とても安心したのを覚えています。病院に着いてからは、怪我の確認をしたり、レントゲンを撮ったり、点滴を打ったりして、たくさん処置を次から次にされることに不安が大きかったです。点滴を打っている途中で、担任の先生も来てくださって「小林さん具合はどうですか？部活の先生も心配してたけど私が代表してきたよ。何よりもあなたが無事でよかったです。」と声をかけてくださったのが嬉しかったです。もちろん、両親や姉も「あいり大丈夫？」と言ってくれて、「みんな私の事を心配してくれた

んだ」と少し元気になりました。点滴が終わった後は家に帰ったのですが、嘔吐があったこともあり、一日だけ入院をしました。入院の際は、母が付き添ってくれて、一人になるのが心細かった私にとってはとても助かりました。母だけでなく看護師さんも寄り添ってくださり、担当の先生もいつも適切な処置をしてくださって、皆さんお忙しいにも関わらず私に寄り添ってくださるのを感じて、とても心が温くなりました。入院は一日しかなかったのですが、退院のときお医者さんから「これから一ヶ月間は脳に大きな衝撃がもう一度起こると危ない」と言われ、ヒヤヒヤしながら学校に行く日々が始まりました。家族も私も不安でしたが、学年の先生方が同じ二年生全員に廊下を歩くように呼びかけてくださったり、みんなが気をつけてくれたり、色々な人が協力してくれたおかげで何事もなく無事に過ごすことができ、無事に完治しました。今では普通に生活できるようになり、部活も思いきりできるようになりました。

担任の先生からこのスピーチコンテストの話を聞いた時、私の事故の経験が、世の中の事故を減らすことにつな

がるのではと考えました。

事故後、両親は警察の方から、「路地の手前で一旦停止をせず飛び出していたら、死んでいたかもしれない」と言われたそうです。運よく軽傷でしたが、それでもダメージは大きく、とても不安な日々を過ごしました。そしてそれは、加害者の人も同じでした。泣きながら謝罪に來られた時、事故は被害者だけでなく、加害者になってしまった方も、取り返しのつかないことを後悔し、辛い思いをするのだということを感じました。

交通事故のニュースは絶えることがありません。その中でも、特に最近気になっているのは、意図的に事故を起こしたというニュースが多いということです。わざと小学生の列に突っ込む、わざと高速道路を逆走する、飲酒運転だと分かっている危険な運転をするなど、信じられないものばかりです。被害に遭うのは何の罪もない人たちです。私の経験した怪我よりもっとひどく、場合によっては亡くなってしまうような被害を受けています。罪のない人たちの命が奪われていくのは許せることはありません。私のような被害者が増えないように、決まりを守る人だけが自動車を運転できる世の中になるように、そんな明るい社会をみんなでつくっていききたいと思います。



令和7年度 「社会を明るくする運動」「青少年の被害・非行防止運動」  
防府地区推進委員会 関係機関・関係団体 一覧

| No. | 関係機関                 | No. | 関係団体                |
|-----|----------------------|-----|---------------------|
| 1   | 防府簡易裁判所              | 19  | 防府観光コンベンション協会       |
| 2   | 防府公共職業安定所            | 20  | 防府市保育協会             |
| 3   | 山口保護観察所（山口県推進委員会事務局） | 21  | 防府市幼稚園連盟            |
| 4   | 防府警察署                | 22  | 「小さな親切」運動防府支部       |
| 5   | 防府市議会                | 23  | 国際ソロプチミスト防府         |
| 6   | 防府市議会教育民生委員会         | 24  | 防府ロータリークラブ          |
| 7   | 防府市                  | 25  | 防府南ロータリークラブ         |
| 8   | 防府市教育委員会             | 26  | 防府北ロータリークラブ         |
| 9   | 防府市青少年育成センター         | 27  | 防府ライオンズクラブ          |
| No. | 関係団体                 | 28  | 防府中央ライオンズクラブ        |
| 1   | 防府市青少年育成市民会議         | 29  | （一社）防府医師会           |
| 2   | 防府保護区保護司会            | 30  | （一社）防府歯科医師会         |
| 3   | 防府市更生保護女性会           | 31  | 防府人権擁護委員協議会         |
| 4   | 防府市社会福祉協議会           | 32  | 防府市老人クラブ連合会         |
| 5   | 防府地区防犯対策協議会          | 33  | 防府遊技場防犯組合           |
| 6   | 防府市子ども会育成連絡協議会       | 34  | 防府地区デパート・スーパー等防犯協議会 |
| 7   | 防府市自治会連合会            | 35  | （一社）防府薬剤師会          |
| 8   | 防府市民生委員児童委員協議会       | 36  | 山口たばこ販売協同組合防府支部     |
| 9   | 防府市小学校長会             | 37  | 山口県理容衛生同業組合防府支部     |
| 10  | 防府市中学校長会             | 38  | 防府美容組合              |
| 11  | 防府地区高等学校生徒指導連絡協議会    | 39  | 防府旅館組合              |
| 12  | 防府市PTA連合会            | 40  | 山口県飲食業生活衛生同業組合防府支部  |
| 13  | 防府地区高等学校育友会          | 41  | 防府自動車整備協同組合         |
| 14  | 防府市赤十字奉仕団            | 42  | 山口県建設業協会防府支部        |
| 15  | 防府スカウト協議会            | 43  | 防府市母親クラブ連絡協議会       |
| 16  | 防府商工会議所              | 44  | 西日本旅客鉄道（株）防府駅       |
| 17  | （公社）防府青年会議所          |     |                     |
| 18  | 防府ユネスコ協会             |     |                     |